

開催月日 : 平成 27年 6月 18日

平成27年度第1回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護連携推進会議

時 間	am / pm 18:30 ~ am / pm 19:30	場 所	千代区役所4階A会議室
司 会	峯 俊美	書 記	石川 亜希子

出席者	高齢介護課事業指定係:1名
	千代田区社会福祉協議会:1名
	千代田区高齢者あんしんセンター:2名
	医療機関: 4名
	訪問看護: 3名
	地域住民の代表者:1名(民生委員)
	知見を有する者:4名
	かんだ連雀:3名
	グッドライフケア24:4名
	以上24名参加

会議内容	1. 開会挨拶 かんだ連雀いつでもサポートサービス管理者 峯 俊美
	2. 事業者紹介 高橋誠(千代田区高齢者あんしんセンター神田)
	3. サービス提供状況報告&事例紹介 グッドライフケア24 濱崎 友子 かんだ連雀いつでもサポートサービス 浅見 達也
	4. ご出席者皆様よりご意見、講評
	5. 閉会の挨拶 グッドライフケア24管理者 珍田 純子

詳 細
1. 開会挨拶
本日もお忙しいところ連携推進会議にお集まりいただき有難うございます。
これより平成27年度第1回連携推進会議を始めさせていただきます。
・出席者確認
2. 事業者紹介
○(千代田区高齢者あんしんセンター神田):
この4月から神田のセンター長に就任いたしました。以前は岩本町のデイサービスで勤務し、昨年度は府中の包括で仕事をしていたのですが、この度ご縁があって千代田区に戻ってきました。改めて、皆さんと共に千代田区のために頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。
○(神田医師会):
東京都医師会の会長が変わった。東京都の方針としては医療と介護の連携に重点を置いている。千代田区は在宅の医師が少ない。75%のドクターが他の区から来て千代田区の患者さんを診ている。25%の患者さんしか千代田区医師会で把握できていないのは残念なこと。皆さんと一緒に頑張っていきたい。
この4月から平成29年度までに一人の方に他職種が連携して情報を共有するという事業が始まる。年金機構の件もあるのもしっかりしたセキュリティシステム作りを行っている。これからは本当に医療と介護が連携していかなければならないので、皆さんよろしくお願いします。
3. サービス提供状況報告 & 事例紹介
詳細: 資料参照
4. ご出席様皆様よりご意見とご講評
(民生委員):
○金銭的な負担に言及があるが、具体的な数字の記載がなく素人には分かり辛い
→(グッドライフ24・濱崎)定期巡回になってからは自費は殆ど出ていないが、その前の訪問サービスの時は相当の自費が出ていた。
○総額いくらで、そのうち公費がいくら、自費がいくら、などが出ていないと分かり辛い。これからサービスを検討する人にも必要になってくるし、ご利用者やご家族にも当然必要だし、この場においても説得力に欠ける。
→(かんだ連雀・峯)ご利用者には料金の話は契約時に説明している。
○ご本人には当然説明しているだろうが、この場においていくらかかっている、定期巡回にしたらこうなった、という数字が必要になると思うので今後検討してほしい。
○どちらのケースも独居とあるが、親族の状況はどうだったのか、などの情報も盛り込んでほしい。
→(かんだ連雀・峯)次回の資料から検討する。
(かんだ連雀):
○訪問介護の長時間サービスだったのを定期巡回にして徐々に時間を短くしていったが、ご本人が納得される関わり方をしたり、サービス時間を短縮することについて職員のコンセンサスを得るのが難しかったのではないかと。

<p>かんだ連雀のケースも、ご本人が一人で生きてきたという自負が強い方なのでサービスを始めるにあたり信頼構築が大事で徐々に始める必要があったが、介護員はすぐに行動したがるのを抑えるのに苦労した。</p> <p>そのあたりを、どのようにしてチームとしてまとめていったのか聞かせてもらいたい。</p> <p>→(かんだ連雀・浅見)サービスに入るには信頼関係の構築が何より大事。ご本人の生活に課題はたくさんあったが、それを一気にやってしまうとその人の生活が狂ってしまって逆に不安を煽ってしまう。まずは一つの課題から始め、ヘルパーとご利用者双方で納得して行う。そこをクリアしたら次の課題にとりかかるというのをチーム全体で共有する。ヘルパーの中には気持ちが昂ってすぐにやりたがるヘルパー症候群の者もいるが、そこをコントロールし教育するのが難しい。</p> <p>訪問介護だとサービス時間・サービス内容が決められているが、定期巡回は生活全般を見ることで、その人の生活を安定させるもの。やり過ぎてはダメ。やり過ぎないように課題を一つ一つ抽出して解決していくというのをヘルパーには説明してサービスにあたってもらっている。</p> <p>→(グッドライフ24・濱崎)この事例の方は、訪問介護を行っていた時には長時間サービスだったので、ヘルパーが何でもできた。本人が出来ることも手伝ってしまったかもしれない。定期巡回に変わって見直しをしようとしたが、ご本人よりもヘルパーの方が「この時間だとできない」という思いがあり、そこを変えるのが一番大変だった。</p>
<p>(千代田区社会福祉協議会):</p> <p>かんだ連雀の事例の方は社協の方も日常生活のお手伝いにやっと入れた方。当初は自分で全部できるから、と入れなかったのを、やっと入れるようになった。その最初にご本人の山積みになっていた通帳を整理したところ、ご本人からその後シャットアウトされてしまった。その後ご本人が体調不良で動けなくなったことがあり、通院に付き添いをしたところから徐々にお手伝いに入れるようになった。本人の関係ができた上でお手伝いを始めないと進んでいかない。</p>
<p>(千代田区医師会):</p> <p>グッドライフの事例の要介護5の方は、ケアをいつまで続けるのか？エンドポイントはどのように設定している？ヘルパーも夜中も毎日入っていて、現場の疲弊などが懸念される。特養が空いたら入るなど大きな目標を立てていかないと継続が難しいのではないかと。</p> <p>→(グッドライフ24・濱崎)今現在特養の申込はしていない。状態は確かに少し悪くなっている。訪問診療のナースが入っていて、当社はアセスメントとしてナースが入っている。その連携がまだ弱い状態。確かに目標は立てていかなければならないが、今のところご本人が家にいたいと言っている状態。</p> <p>→(かんだ連雀・峯)医療が必要な方でも在宅を希望される方が増えてきている印象。そういう方がいかに自宅で最期を迎えるか、ということを目標にお手伝いしたケースもあるが、やはり医療と介護の連携が重要で、定期巡回の課題になっている。</p>
<p>(訪問看護):</p> <p>○緊急コールの認識具合と実際に緊急コールを押されたこと、回数はどれくらいあるか。</p> <p>→(グッドライフ24・濱崎)この方は認知症状は殆どなく、トイレや気分が悪い時などにコールが押される。0時の介入を入れる前は23時台に週2,3回あったが、0時に入れるようになって夜中は殆どなくなった。</p> <p>→(かんだ連雀・峯)こちらのケースはまだサービス開始して1ヶ月でまだコールは無い。この方以外のケースだと、トイレだったり、寂しいという理由で押されることが多い。その場合も電話での対応で終わることが多く、緊急性のあるものは殆どない。</p>

○会議冒頭に要介護度別の人数内訳を口頭で発表してくれるが、紙面に記載することはできないか。

→(かんだ連雀・峯)次回から記載する。

5.閉会の挨拶

グッドライフケア24管理者 珍田 純子

27年度初めての連携推進会議でした。前回、評価基準を作成していきたいという話をさせていただきましたが、この定期巡回サービスにはどういった事例が適切なのかというのをケアマネや地域の方、医師の方などにわかりやすくお伝えできるようにしていきたい。また、後々検証できるような客観的な目標を設定するなどを両事業所で共有し、千代田区における定期巡回の考え方や支援内容に対しての適切な時間などをまとめていきたいと考えています。引き続き色々ご指導いただければと思いますので、よろしく願い致します。ありがとうございました。

次回9月17日(木)予定